

# \*\*\* 今日の健康（4月）\*\*\*

## ＜先天性風疹症候群を防ぐために その1＞

風疹の感染力はインフルエンザの2～3倍と強く、1人の患者から免疫がない5～7人に感染させる可能性があり、成人で発症した場合は高熱や発しんが長く続いたり、関節痛が出現したりするなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあり決して軽視はできない疾患でもあります。妊婦が感染を受けると胎児に先天性風疹症候群を引き起します。

風疹は子どもの病気と思われがちですが、近年では子どもよりも大人の間で感染が広がっているため注意が必要です。流行は春先から初夏に多く、潜伏期間は2～3週間、感染しても症状の出ない人が15～30%程度います。

### ＜先天性風疹症候群＞

免疫のない女性が妊娠初期に風疹にかかると、風疹ウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障害を引き起こすことがあります。

CRSの3大症状は先天性心疾患、難聴、白内障です。このうち、動脈管開存症などの先天性心疾患と白内障は妊娠初期3ヵ月以内の母親の感染で発生しますが、難聴は初期3ヵ月のみならず、次の3ヵ月の感染でも出現する症状です。しかも、高度難聴であることが多いとされています。3大症状以外の症状には、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたっています。



[詳しくはこちら（厚生労働省 WEB ページ）](#) (Ctrl キーを押しながらクリック)

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏

# \*\*\* 今日の健康（6月）\*\*\*

## ＜先天性風疹症候群を防ぐために その2＞

先天性風疹症候群を持った赤ちゃんがすべての障害を持つとは限らず、前号で紹介した障害のうちの1つか2つのみを持つ場合もあり、気付かれるまでに時間がかかることもあります。妊娠2ヵ月頃までは目、心臓、耳のすべてに症状を持つことが多いですが、それを過ぎると難聴と網膜症のみを持つことが多くなります。妊娠20週以降では「異常なし」が多いと報告されています。

### ＜予防対策＞

風疹は、風疹ウイルスを含んだ飛まつ（咳やくしゃみ、会話、発語などで飛び散るしぶき）を吸い込んで感染します。手洗いやマスクの装着では、十分な予防手段ができるとは考えられていません。一度自然に感染するか、ワクチン接種することで免疫がつくられ、風疹にかかることがなくなるとされています。感染予防には妊娠の2ヶ月以上前までに、風疹ワクチンの接種が極めて有効です。



### ＜風疹抗体価検査、予防接種の助成制度＞

これから妊娠を希望する女性の方で、風疹ワクチンを受けているか不明な方、風疹にかかったことが確実でない方は、ご自分の風疹抗体価を検査する必要があります。

現在、多くの自治体では先天性風疹症候群の予防のために、主として妊娠を希望する女性を対象に、風疹の抗体検査を無料で実施しており、感染を防ぐのに十分な抗体価が認められない場合は、風疹ワクチンあるいは麻疹・風疹混合ワクチンを安価で接種出来ます。風疹の予防接種は、麻疹も一緒に予防できる「麻疹・風疹混合ワクチン」を受けることをお奨めします。

[詳しくはこちら（厚生労働省 WEB ページ）](#)（Ctrl キーを押しながらクリック）

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏